

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 楽々)

事業所番号	0693000051		
法人名	株式会社 ライフネット		
事業所名	グループホーム ほなみ家		
所在地	山形県東田川郡庄内町余目字四ツ興野52		
自己評価作成日	平成 24年 6月 26日	開設年月日	平成 22年10 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域とのつながりを大切にし、馴染みの地域で、馴染みの方や地域と交流し、楽しく喜びのある生活を送ることができるよう努めている。また、ケアの向上を目指し、施設内・外の研修に参加し、知識を取り入れ、今まで以上に重度化や終末期にも対応していけるよう努めていく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者のおもいや気持ちに寄り添い地域のつながりを大切にし家庭的な雰囲気の中できめ細かな支援をし、その人らしい暮らしを支えるという理念を掲げ、管理者や職員各々がその実践に向け努力している。利用者ごとの担当者による6か月毎のきめ細かなアセスメントの実施、地域の方々との日常的な触れ合いや声掛け等、日々のケアに地域密着型介護サービスとしての理念が活かされている。まだ開設2年目の事業所ではあるが、管理者と職員は一丸となって重度化や終末期にも対応する等、当面の課題や問題解決への意識を持って取り組んでおり、さらなる発展が期待できる事業所である。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成24年 7月 20日	評価結果決定日	平成 24年 8月 8日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・各ユニット休憩室に掲示し、周知・共有化に取り組み、利用者が地域社会の一員として生活できるように努めている。	理念は玄関やユニットの休憩室等見やすい場所に掲示し、会議等で振り返り、職員間で話し合い確認を行っている。職員は理念を良く理解し念頭におきながら、利用者に寄り添い、地域とのつながりを大切にサービスを提供している。管理者等は普段から職員の実践状況を注視し、理念の共有と実践に努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入し、町で主催の長寿サポーターの受入れ、地域住民参加の夏祭りや散歩の際は挨拶を交わしている。	毎月長寿サポーター等のボランティアの来所があり、また近隣住民の訪問等外部の人との関わりが見られる。事業所の行事に地域住民の参加を呼びかけると共に地域の行事にも積極的に参加している。職員等も普段から地域との付き合いを大切に、散歩等外出の折には挨拶等声かけを積極的に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方と日常的に関わりを持ち、認知症の方の理解に努める努力をしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に開催し、施設の現状や外部評価の報告、関係者から質問・意見・要望を受け、サービス向上に生かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、事業所の行事や状況、取り組み(ターミナルケア、ボランティアの受け入れ等)報告し様々な意見を頂いている。今年度は昼食時に委員を交えて試食会を開催し、日常の生活についてより具体的な意見を頂く機会を設けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用情報や疑問点や問題点など日常的に連携を取り合っている。担当者は運営推進会議へ参加して頂いている。	運営推進会議に町職員の参加を頂き日々の様子を伝えると共に、個別の案件にはその都度助言を頂き、また困難事例等町と協力し問題解決に向け取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>本人の行動パターンを把握し、身守り強化することにより、日中は施錠はせずに対応している。又、職員の皆が意識し、防止に向け常に努力している。</p>	<p>代表者は、身体拘束は行わないという方針を、普段から会議の席で繰り返し話している。職員は身体拘束の禁止となる具体的な行為やその弊害を理解しており、良く話しを聞き否定せず寄添いながら見守りを重視し安全を確保する事によって、鍵を掛けない工夫や、身体拘束をしないで過ごせる工夫を行っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>施設内外の研修会に参加し、必要な知識は得るようにしている。入浴時は身体チェックし観察を行う。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>施設内外の研修会に参加し、必要な知識は得るようにしている。復命書にて全職員回覧行い、周知し理解を深める。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分に説明行い同意を得るよう心掛けているが、不安があれば都度説明行っている。改定時も家族自宅へ訪問し納得いくよう説明行う。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族来訪時に職員は必ず声かけ行い、要望や苦情を言ってもらえるような雰囲気作りを心がけている。</p>	<p>職員は家族等とは普段から連絡を密に回り日ごろから信頼関係を構築し、意見等表しやすい関係を大切にすると共に、面会時や行事等家族と接するときに積極的に意見や要望を聞きだすよう努めている。出された意見や要望は申し送りやユニット会議で話し合い、職員が共有しサービスの向上に繋げている。</p>	
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎朝の朝礼や月1回スタッフ会議とユニット会議行い、職員の意見や提案を聞き入れ、改善に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は年1回の個別面談を行い、現場にも頻繁に来ており、業務の状況などを把握し、随時職員の話を聞くよう努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任の職員は必ず新任研修、他職員も外部研修に参加できるよう工夫し、復命書にて全職員にて周知し、会議で伝達行っている。	様々な外部研修に職員を派遣すると共に、その内容を復命書や会議での発表等で他の職員に共有出来るよう努めている。今年度からは研修委員会を起し事業所主体の研修の機会の確保も始めている。職員も資格取得に熱心で、事業所はそれを積極的に支援している。代表者は、年1回職員と面談を行い、職員それぞれのケアの実際や力量等の確認を行っている。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会や地域密着型事業所の交流会などに参加し、情報交換を行いサービス向上に努めている	酒田市の事業所が集まる研修会や交流会に、管理者や職員を参加させて情報交換を行い、その情報を基にサービスの向上に活かすよう努めている。	

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に自宅や入院先を訪問したり、施設見学に来訪して頂くなどし、必ず本人と面談を行い、本人の思いや不安を理解するよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と面談を行い、不安や悩みなどに耳を傾け、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前に本人・家族と面談を行い希望を把握し、居宅のケアマネや病院の相談員と情報交換しながら、必要なサービスを見極めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や掃除、畑仕事など得意なことや興味のあること等は、一緒に手伝って頂き、レクリエーションや茶話会など、楽しみを共有する時間も作っている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や電話、手紙などにより日々の様子や、本人の思いを伝え、家族にもその都度協力頂き、家族との関係が途切れないようにしている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の方や知人・友人など、気兼ねなく訪ねて来られ、神社等にも散歩にも出かけている。なじみの床屋さんや買い物にも出かけ途切れないようにしている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や、利用者同士の関係を見極め			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の施設等に移る際には、必要に応じて情報提供を行っている。また、家族の相談を受ける等の支援にも努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で把握し、アセスメント様式はセンター方式にて、思いや意向を汲み取り本人本位のケア提供に努めている。	利用者それぞれの担当者がセンター方式アセスメントシートを使用し6ヶ月毎に思いや意向を把握している。職員は普段から、何がその人にとって必要なのか意識しながら係わり、利用者の思いや暮らし方等の検討を行なっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談や、日常生活の会話や家族、知人との話し合いから、生活歴の情報収集を行い、職員間で共有に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の状態把握に努める為、状態により1日に数回バイタル測定行っている。また、表情や言動などからも心身の状態把握に努め、職員間で周知徹底行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いや意向を確認し、さまざまな角度からの介護計画を作成するよう心掛けている。	3ヶ月に1回のモニタリングと6か月ごとのアセスメントを基に6ヶ月毎の見直しを行って。計画作成担当者を中心として、担当者のアセスメントやモニタリング、家族から聴取した意見等をユニット会議で話し合い現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状態を個別の介護記録に記録し、特に気になる行動や状態は連絡ノートにを活用し、スタッフ全員が情報を共有し見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署立会いでの、防災訓練、長寿サポーターのボランティア来設、近隣周辺散歩し地域の方との、馴染みの関係作りで豊かな暮らし作りに努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科の協力医療機関の月2回の往診と、家族希望の医療機関への送迎や付き添い、医師への情報提供を行っている。また、歯科や整形外科の往診なども協力頂いている。	かかりつけ医は利用者及び家族の希望を大切にしている。通院等は原則家族にお願いしているが、状況に応じて通院支援や付き添いも行っている。情報提供書により、事業所での様子を医師に伝達し、診察結果は電話や文書により家族に伝え情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師の資格を有した代表や、定期的に来設する内科の看護師に、変化があった利用者に関する相談をし、適切な対応がとれるよう支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者個々の状態把握に努める為、状態により1日に数回バイタル測定行っている。また、表情や言動などからも心身の状態把握に努め、職員間で周知徹底行っている。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に契約書・重要事項説明書で説明し同意を得ている。また、終末期には家族・医療機関と密に連絡取り合い、方針を共有し取り組んでいる。</p>	<p>積極的な看取り体制は行っていないが、今年になってから本人や家族等の強い希望により2名の看取りを経験した。家族や主治医と繰り返し話し合い意向を確認しながら方針の共有を図った。この経験を大切に更に医療関係者との連携や職員教育等を行い看取り体制の確立に向け努力している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時のマニュアル作成し、救命救急講習を受講したり、インターネット活用し、知識・技術習得に努めている。</p>		
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災・地震・日中・夜間のケースでの防災訓練を実施。年2回、消防署立会い定期的に訓練行っている。また、自治会長の緊急連絡網での応援体制などある。</p>	<p>消防署の立ち会いの基に年2回火災や地震等に対する防災訓練を実施している。災害時の備蓄や発電機等の整備も行っている。地域の協力としては自治会長の連絡網での応援体制があり、今後も協力を呼びかけ地域との協力体制の更なる構築に努力している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への呼び掛けは本人のプライドを尊重し、日々の会話やしぐさを細かく把握しながら対応している。	個々にあった話し方を職員間で話し合い、一人ひとりに合った言葉かけを行っている。普段から職員同士で注意し合い不適切な言葉かけが無いよう努力している。プライバシー保護のマニュアル等整備も図られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示しやすい環境や場面を作るよう心掛け、押しつけにならないよう、選択肢を設けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態により、起床時間や就寝時間、入浴日など、一人ひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時などは、好みの服を選んで頂き、散髪時は自分の好みでカットしている。また、好みの化粧水やクリーム等は、家人より持参頂いたり、買い物に出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を把握し、準備や食事、後片付けなど一緒に行い、盛り付けなどの工夫もしている。季節物を取り入れ、アンケートにて食べたい物を提供するようにしている。	給食委員会で食事についてのアンケートを行い利用者の希望を取り入れたメニューを作っている。準備や片付け等調理の過程で役割を担ってもらい、職員と一緒に会話を楽しみながら食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録し、体調不良や食欲不振時には高カロリー食を補食し、水分摂取量の少ない方には、水分補給ゼリーを提供している。嚥下困難な方にはミキサーやトロミにて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	習慣により毎食後は口腔ケアを行い、出来ない方や磨き残しは、職員が手伝っている。また、希望者は歯科医の往診や衛生士の口腔ケア訪問など行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄パターンを把握してトイレ誘導するようにしている。	排泄チェック表や表情仕草等から、適時の声かけや誘導によりトイレでの排泄に向け努力している。トイレの場所を間違える利用者のために、表示を工夫するなど失敗なく安心してトイレで排泄ができるような対応も行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量のチェックや、食事にも食物繊維や乳酸菌を考えた献立を提供し、日中には個々に合わせた、軽体操や歩行訓練行い、身体を動かすよう取り組んでる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の順番や時間は、本人の希望を聞きながら意思を尊重し、拒否あれば次に日に変更している。	入浴は利用者の希望に添うよう努めている。利用者の身体状況に合わせて一般浴と機械浴に対応できるよう整備され、安心して入浴を楽しむことができるような支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間は決めておらず、利用者のペースや体調に合わせている。午睡はベッドでなくソファで軽く寝たい方にも、気持ちよく横になれるよう環境を整えている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方される毎に効能書やコピーを頂き、変更時は連絡ノートや口頭での申し送り周知徹底行っている。また、禁止食のある方などは冷蔵庫に一覧表を掲示している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来るだけ外出する機会を設け気分転換を図り、家事など好きな方には、掃除や食事の手伝い等、役割や楽しみを持った生活が出来るよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天気にもよるが、散歩や買い物、ドライブ等行っている。墓参りや自宅を見に行きたい等の訴えには、家族のにより協力頂いている。	毎月の行事や普段の散歩、買い物等外出する機会が確保されている。利用者個々の希望による買い物等個別の支援も行われている。気分転換の為デッキや庭でお茶会等外気に触れる機会も確保されている。家族との協力による墓参りや一時帰省等の支援も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の金銭管理能力に応じ、所持している方もいますが、基本的には施設や家族管理しています。必要な物があれば、一緒に買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望や家族からの電話があれば、いつでも家族と話しが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルやソファ、ベンチなどで思いおもいの過ごし方が出来る作りで、掲示物にも季節感を取り入れ利用者と一緒に作成している。	共用空間は飾りつけ等もさりげなく落ち着きがあり、大きなソファとテーブルが配置され利用者それぞれが思いおもいの場所でゆったりとくつろげる空間となっている。窓の外にはデッキがあり気分転換に外気浴を楽しめる場所がある。清掃も行き届き清潔感があり、空気清浄機を設置し、心地よく過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチがあり、一人になりたい時にはゆっくりと過ごし、ユニット間も自由に行き来できるので、気の合う方とソファで過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で使用していたテレビやラジオ、時計など使用し、昔自分で作った人形や家族の写真を掲示し、本人・家族の希望により、ベットやダンスの位置なども変えている。	利用者それぞれの馴染みの物をもち込んでもらい利用前のギャップの軽減を図り、それぞれが思いおもいの配置や飾りつけがなされている。備付けの家具も収納しやすいものを設置し居心地よく暮らせる配慮がされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーになっており、ユニット間廊下に手すりが設置されている。居室内は個々の歩行能力に合わせたベット配置や椅子の配置に工夫している。		